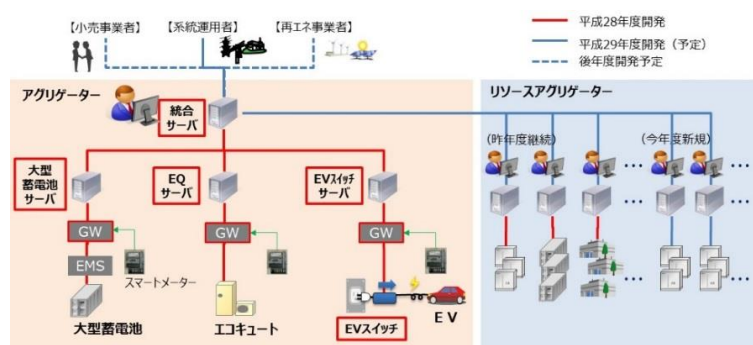


バーチャルパワープラント構築実証事業の概要

1. 平成28年度の実証内容と結果

アグリゲーター自らがエネルギーリソース（大型蓄電池、電気自動車、エコキュート）を制御するために必要なシステムを構築し、アグリゲーターの統合サーバから各エネルギーリソースを制御できることを確認しました。また、リソースアグリゲーター（アグリゲーターの指令に基づいてエネルギーリソースを制御する事業者）の役割を担う企業については、自社のサーバでエネルギーリソースを制御するために必要なシステムを構築しました。

<システム構成のイメージ図>



2. 平成29年度の実証内容

平成28年度に開発したシステムの機能拡張等を行いつつ、実フィールドへのエネルギーリソースの設置やリソースアグリゲーターとのサーバ連携を図るなどエネルギーリソースの多様化を図ります。また、蓄電池群監視制御システムの仕様検討や蓄電池の劣化評価などバーチャルパワープラントのビジネス化を見据えた技術検討を行います。

<具体的取組みの例>

- ・ 実フィールドに大型蓄電池、電気自動車、エコキュートおよびVPPに対応させるための機器を設置し、サービスを念頭においた通信・制御テストを実施する。
- ・ 平成28年度に共同で実証を行った企業に加え、新たな企業と統合サーバと各企業のサーバを連携させ、幅広いエネルギーリソースを制御できるシステムを構築する。
- ・ 数万台規模の家庭用蓄電池を群制御し、周期が短い負荷変動に対応した調整力を供出する蓄電池群監視制御システムの仕様を検討する。
- ・ 蓄電池の劣化度合いの把握に向けた計測・解析手法の検討を行い、蓄電池の残存性能評価に向けたアルゴリズム検討、課題抽出を行う。

3. 実施場所

関西エリアを中心とした企業内設備及びお客さま設備

4. 実施期間

平成29年7月14日（交付決定日）～平成30年2月28日